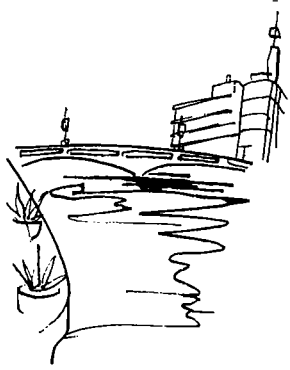


Title	この道30年
Author(s)	高宮, 武彦
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 14, p. 15-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84603
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



この道 30 年

高宮 武彦

ベテランの欄に寄稿依頼をうけたので、ベテランの言葉の意味を調べようと思ったところ、幸い本誌の13号に、大阪市衛生局の石田女史が詳しく述べられていた。私は何故にベテランの指名を受けたのか考えてみると、昭和9年に大農獣医畜産科を卒業して、大阪府警察部衛生課に奉職して今日まで「バカの一つ覚え」の諺どおり、乳肉衛生行政をただ一筋に過してきたが、数えてみると本年で満30年となり、この30年の年期がものをいって、ベテランの指名と相成ったと思います。皆様も御承知のとおり人一倍心臓の強い男ですが、決して自分はベテランなどとは思っておらず、ベテランへの道は峻しく、1日も早くベテランの域に達したいものと、日々これ新なり的心境で努力いたしている次第であります。

さてこの30年間を振り返ってみると、いろいろな事件があったが、大事件としては昭和25年のシラス中毒事件で、272名の患者を出しうち、20名が死亡した食中毒で、シラス中毒対策本部を設置し、阪大の藤野教授を中心に衛生部は勿論のこと、大学、研究所総動員で原因の明究に努めたが、当時適確な原因が判明しなかった。然し藤野教授が患者の死体より検出した新しい菌に *Pasteurella Parahaemolytica* と名命したが、この菌が今日我が国における食中毒菌として、大きくクローズ・アップしてきた病原性好塩菌の一種で、シラス中毒の検査結果が10年後に、病原性好塩菌による食中毒の調査研究の貴重な資料となり、藤野教授の御努力に対し深く敬意を表する次第であります。

次に、放射能マグロですが、昭和29年3月1日

南太平洋上のビキニ島において、アメリカが世界で始めて原爆の地上実験をした際、噴き上げた灰によって、福竜丸の船員と漁獲したマグロが放射能の被害を受け、死の灰と恐れられたが、その後南太平洋上で漁獲されたマグロの放射能検査が始まり、水産物の衛生検査を受持っていた関係上、放射能マグロが私の担当となったが、原爆はどんなものか核物質とは何か、獣医師である私に解る筈もなく、解らないまま放射能と取組んで随分勉強したもので、その年の十月東京で開かれた公衆衛生学会に「放射能の北上について」と題し、中央市場における検査結果よりマグロの捕獲位置と月日によって、ビキニの放射能が次第に北上して日本に近づくことを発表したが、数多い研究発表のうち私の発表だけが新聞に大きく取上げられ、また雨の日に中央市場でマグロの検査中、雨に放射能を含んでいることを発見し、市大の西脇先生がこれを裏づけて下さったので、新聞が私の写真入りで大きく取上げられたことなど、今も本欄に十数冊の放射能に関する本が並んでおり、時々この本を手にして当時の苦労を思い出しております。

最近、食生活の改善合理化によって動物性蛋白食品の消費が急激に増加し、なお今後ますます拡大の傾向にあり、従って乳肉衛生行政が重要視されてきたが、幸い私は昨年欧米に出張を命ぜられ、先進国の乳肉関係を視察してきたが、食肉企業団地の建設など新しい企画のもとに、乳肉衛生行政の向上に努力いたす考えでありますので、御協力の程お願いいたします。

高宮武彦氏—昭和9年10月大阪府警察部衛生課に就職、その後乳肉衛生係長、食品衛生課主幹を経て昭和38年8月食品衛生課参事